

# News Letter vol.58 2013.01.09

## オランダ デルフト工科大学に滞在して

派遣期間: 2012.9.3~2012.12.1

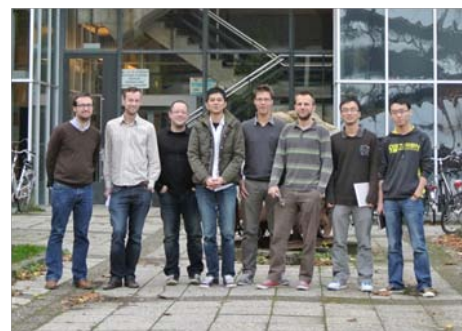
派遣国名:ネーデルラント王国 受入機関:デルフト工科大学



フェルメール作「デルフトの眺望」を感じさせる建造物

運河あり、田園あり、工業あり、大学あり、そして教会ありの美しい中世風の街です。デルフト工科大学から歩いて 20 分程度のところに、街の中心である旧教会と新教会があります。いずれも立派なカトリックの教会ですが、旧教会は少し傾いており年月の長さを感じることが出来ます。教会の中世風の螺旋階段を上まで登ると赤い煉瓦の屋根で出来た美しいデルフトの市街が一望できます。デルフトは中世そのままに残された街であり、同時に陶器で有名な街です。特に旧教会の周辺は十六世紀に描かれた絵と全く同じ景色がそのまま残されています。石畳の道路と洒落たカフェテリア、小さい運河、路面電車、どれもこれも美しくロマンティックな雰囲気が溢れています。デルフトを愛した画家フェルメールが描いた街を今でも感じることが出来ます。

デルフト大学は 1842 年設立の 170 年以上の歴史をもつオランダ最大、最古の工科大学です。約 5,000 人の教職員、約 14,000 人の学生を抱え、土木工学部、建築学部、航空宇宙工学部、工業デザイン学部、電子・数理・情報工学部等、計 8 学部で構成されています。オランダ国内の学生は当然の事として、世界各地から学生がデルフト工科大学へ学びにきています。この滞在を機に、様々な国の研究者と学生と知り合えることができました。



研究発表を終えホッと一息



最後の食事会に招待していただきました

今回のオランダの滞在は、研究面において、「微生物の代謝を利用した土の固化処理技術」および「軟弱地盤の沈下予測手法の検討と開発」について研究に従事いたしました。前者については受入研究者と博士後期課程の学生と実験的検討を行い、後者については大学に併設されているコンサルタント会社デルタレスの研究者と議論・検討を重ねました。今思い返しても非常に充実した日々であり、今後の研究展開と更なる交流にも期待ができるものとなりました。生活面においても大変充実した時間を送ることができ、中でも親しい友人となったドイツ人の研究者達とパブにてビールを飲み交わしたのは大変良い思い出です。滞在を許可して頂いた受入教員、知り合った研究者の方々、友人に感謝の意を表すとともに、本プログラムの運営にご尽力いただいた関係者の皆様方に御礼を申し上げます。